

令和4年度第1回「弥富市地域公共交通活性化協議会」 議事録

日時：令和4年6月27日（月）

午後2時から

場所：弥富市役所本庁舎3階 大会議室

○議 事

1.開会

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none">・ 定刻となったので、ただいまから、令和4年度第1回弥富市地域公共交通活性化協議会を開催する。・ 本日の協議会は委員総数21名のうち19名が出席しており、協議会規約第9条第1項に定める半数以上の定数に達しているため、会議が成立していることを報告する。・ また、当協議会は協議会規約第9条第3項により、会議を公開とする。
---------------	---

2.あいさつ

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none">・ 最初に、安藤市長よりご挨拶をいただく。
安藤市長	<ul style="list-style-type: none">・ 本日は令和4年度第1回となる弥富市地域公共交通活性化協議会にご出席いただき感謝申し上げます。・ 平素は本市の交通行政に対してご支援、ご協力をいただき心より感謝を申し上げます。・ 我慢の暑さが続く中ではあるが、それぞれご意見いただけると幸いです。マスクが熱いというときは外していただいても構わない。・ 新型コロナウイルスに関して、本市でも低い数字を維持しているが、まだまだ終息にはなっていない。4回目のワクチン接種も進めており、終息にはまだまだ時間がかかると思われる。皆様におかれては、新しい生活様式の中で感染予防対策に努めていただきたいと思います。・ 公共交通だが、きんちゃんバスの実験運行を第1期に続いて第2期を8月31日まで行っており、再編に関して、先日大藤学区と栄南学区の区長を交えてコミュニティ推進協議会の交通防災部会のメンバーにご参加いただき、公共交通の再編に向けてご意見をいただいた。・ 南部ルートエリアは高齢化率が高く、高齢者単身の世帯や高齢者のみの世帯が増加しており、その方々の日々の通院や買い物が課題となっている。そこで新たな移動手段の導入に向けて、第3期となるデマンド型乗合タクシーの試験運行を行い、より利便性が高く利用者に移動が楽になったと思っただけのようにしていく。・ 事業者が決まったら、公共交通再編の必要性を踏まえて、乗り方や予約の仕方を丁寧に説明し、多くの方に試験運行に参加していただけるように本格導入に向けて進めていきたいと思っているので協力をお願いしたい。・ 本日は多くの審議がこの後予定されているが、慎重にご審議いただきました。

	い。
--	----

3.資料確認

事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の会議資料の確認を事務局よりお願いする。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・会議資料の確認をする。 ・事前に送った資料は、 ・資料1：弥富市地域公共交通活性化協議会委員名簿 ・資料2：令和3年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算書 ・資料3：令和5年度地域公共交通確保維持改善計画（案） ・資料4：無料お試し乗車券について ・資料5：バス停名等の変更について ・資料6：第2期南部地域社会実験運行バス（南部地域通学通勤バス）について ・資料7：第3期南部地域社会実験運行について ・参考資料1：弥富市地域公共交通活性化協議会規約 ・参考資料2：利用者実態調査結果 ・参考資料3：弥富市ささえあいセンター買い物支援サービス 令和3年度輸送実績 ・参考資料4：令和4年度弥富市地域公共交通活性化協議会事業計画及び予算 ・参考資料5：活発で良い議論ができる会議のために ・参考資料6：チョイソコ特徴 ・また、本日机の上に ・（昨年度から変わられた方には）委嘱状 ・資料3 当日差し替え版 令和5年度地域公共交通確保維持改善計画（案） ・資料6 当日差し替え版 第2期南部地域社会実験運行バスについて ・栄南学区・大藤学区の意見交換会議事録 ・配席表 ・フラットファイル <p>を配っている。確認いただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここより、座長の山崎委員に交代させていただく。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は梅雨も明けて暑い状態であり、またコロナも落ち着いて皆さんもコロナがある生活に慣れてきている。 ・今まで協議を重ねてきたが、今が大きな変革点である。今まで路線で運行して住民から要望があるとバス停を増やして、長い路線になってしまった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・今回はデマンド運行を導入してみようという試みである。 ・弥富市はゼロメートル地域で防災に関心が高い。自助、共助、公助というものが防災であり、行政や地域の企業が助ける「公助」が交通においても注目されている。公助として地元の企業が協賛金を出してバスを運行するという例がある。今回検討するチョイソコもその1つである。
--	---

4.議題

(1) 地域公共交通活性化協議会について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今日は議題がたくさんあるが、活発な協議ができればと思う。 ・まず、地域公共交通活性化協議会について、事務局の資料説明をお願いします。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年第1回の協議会と同じ内容であるが、昨年出席されなかった方もいらっしゃるため、議題としてあげさせていただいた。 ・名簿をつけさせていただいているが、このうち昨年から変わられたのが区長会長 伊藤様、女性の会代表 小林様、愛知県都市交通局交通対策課 大林様、愛知県海部建設事務所 伊藤様、蟹江警察署交通課 有田様となっている。 <p>○参考資料5 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弥富市地域公共交通活性化協議会の開催にあたり、参考資料5として、国土交通省、中部運輸局から発行されている「活発で良い議論ができる会議のために」という資料を配付している。 ・2 ページ目をご覧ください。 ・冒頭にある「地域公共交通会議」は、弥富市の場合は本協議会に当たる。地域にふさわしい公共交通をつくりあげていくために住民、交通事業者、行政など関係者みんなで、話し合っ決めて場となっている。 ・3 ページ目、4 ページ目でそれぞれの立場における役割が分かりやすく簡単に整理されている。 ・住民代表の方を例に見ると、日ごろから感じている、利用する上での課題や困ったこと、地域の視点から公共交通に関する課題や必要な取組みを提案、とされているので、日ごろから感じていることや疑問に思うこと、よくわからないことなど、なんでも結構なので積極的に発言いただきたいと思う。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局から資料の説明をしていただいた。 ・ご質問があればいただきたい。よろしいか。 ・年度初めということで説明をしていただいた。
岡本委員 (愛知県運輸支局)	<ul style="list-style-type: none"> ・この会議は市や国の実施内容をご理解いただくという会議ではなく、実施内容に対する意見を聞くことがメインである。 ・なかなか発言しにくい雰囲気になるかもしれないが、意見をいただかないとどうすればいいかわからないという実情がある。資料の次第に沿っていなくても、間接的な話でも結構なので、遠慮なく意見を述べていただきたい。 ・6 ページの素朴な疑問について、直近の話ではほかの自治体ではあるが、バスの駐車場が狭いという住民の意見から現段階で国や市と調整しているという事例がある。ぜひ小さなことでも発言していただきたい。

4.議題	
(2) 令和3年度収支決算について	
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・審議が必要な事項となっている (3) 令和3年度収支決算について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (富居)	<p>○資料2説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算について資料2を基に報告する。 ・1ページ目の決算書について、款・項・目、流用後の予算額、決算額の順に報告する。 ・歳入。 <ul style="list-style-type: none"> ・1款、負担金、予算額、1億1千616万4千円。決算額、1億1千14万3千361円。 ・4款、諸収入、1項、預金利子、予算額、千円。決算額、2円。2項、雑入、予算額、461万8千円。決算額、801万8千円。 ・計、予算額、1億2千78万3千円、決算額、1億1千816万1千363円となる。 ・歳出。 <ul style="list-style-type: none"> ・1款、総務費、1項、総務管理費、1目、会議費、予算額、1万円。決算額、0円。 ・2目、事務局費、予算額、4万円、決算額、6千820円。 ・2項、諸費、予算額、801万9千円、決算額、801万8千2円。 ・2款、事業費、1項、事業推進費、1目、事業推進費、予算額、1億1千176万3千円、決算額、1億989万240円。 ・2目、広報公聴費、予算額、95万円、決算額、24万6千301円。 ・3款、予備費、予算額、千円、決算額、0円。 ・計、予算額、1億2千78万3千円、決算額、1億1千816万1千363円となる。 ・詳細については備考欄を参照願う。 ・次に、運行事業費について、もとの資料2の2ページをご覧ください。委託契約額1億613万2千200円、運賃収入等が492万9千870円で、契約額から運賃収入等を差引いた1億120万2千330円が事業費となっている。 ・また、次ページには、これまでの各年度のバス運行経費などについて整理している。 ・運行経費は、人件費等の上昇により増加傾向となっていたが、令和2年度からのコロナ禍により利用者が2万人程度減少した影響もあり、令和3年度の収支率は4.6%と、令和2年度に次ぐ低い値となっている。 ・以上で、説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて監事の伊藤区長会長に監査結果を報告いただく。
伊藤委員 (弥富市区長会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・監事より、監査結果について報告する。 ・弥富市地域公共交通活性化協議会事務局より提出された令和3年度弥富市地域公共交通活性化協議会収支決算について、諸帳簿及びその証拠書類を監査した結果、いずれも適正に執行され、決算額に誤りはないもの

	と認められることを報告する。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいまの説明と、監査結果の報告をいただいた。 ・この協議会は法律の下行っている。協議会が持っている予算を使ってバスを運行しているため、こういった決算報告がある。 ・これに関してご質問があればお願いします。よろしいだろうか。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の運行経費が他年度に比べて高いのは、実験運行で急行便を追加したため運行経費が上がっているという認識で合っているか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・その認識で合っている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・どこの地域も人件費の増額や燃料費の上昇が原因で年々運行経費が高くなっている。 ・決算報告についてご審議いただきたい。意思を表示していただくために挙手をお願いしたい。 ・令和3年度弥富市地域公共交通活性化協議会決算に承認される方は挙手をお願いしたい。 ・承認いただいた。

4.議題

(3) 令和5年度地域公共交通確保維持改善計画(案)について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、議題(3)令和5年度地域公共交通確保維持改善計画(案)について、事務局より説明していただく。こちらについても審議事項となっている。
事務局 (富居)	<p>○資料3説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度 地域公共交通 確保維持改善計画案について、本日配付した当日差し替え版の資料3を基に説明する。当日差し替え版の修正内容は様式を修正している。 ・また昨年度からの修正部分は赤字で示している。 ・一定の要件を満たし、この「地域公共交通確保維持改善計画」に位置づけられた路線については、「地域公共交通確保維持改善事業」の運行補助を受けることが可能である。 ・地域公共交通確保維持改善計画には、様々な添付様式・資料があるが、ここでは、地域公共交通確保維持改善計画のほか、資料末尾に表1として、弥富市内で運行する運行系統を一覧で整理したものを添付してある。 ・運行系統は、きんちゃんバスの北部、南部、東部の3つのルートに対し、起点や経由地、終点の違いでより詳細に区分したものとなっており、全部で17系統が運行している。 ・なお、確保維持改善計画の計画年度は10月から翌年9月までを1ヵ年としている。 ・最初のページにお戻りいただきたい。 ・計画の内容について説明する。 ・まず、「1.地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性」についてだが、弥富市内の公共交通網は、飛島公共交通バス蟹江線が地域間幹線系

	<p>統として、蟹江線に接続する東部ルートがフィーダー系統として国庫補助を受けて運行しており、きんちゃんバス全ルートが近鉄弥富駅で、北部ルート及び東部ルートは佐古木駅でも鉄道と接続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次に、計画の目的としては、平成 28 年 3 月に策定した「弥富市地域公共交通網形成計画」に基づき、まちづくり等の上位・関連計画と連携するとともに、地域特性や利用者特性に応じた継続的な改善を行い、使いやすく環境にもやさしい地域公共交通として確保・維持することを目的としている。 ・なお、「弥富市地域公共交通網形成計画」の基本理念を踏襲した「弥富市地域公共交通計画」を令和 3 年 3 月に新計画として策定しており、引き続き確保・維持に努めるものとしている。 ・計画の必要性については、利用者で最も多い高齢者などの交通弱者の交通手段確保として確保・維持していくことのほか、「弥富市地域公共交通計画」に基づき、今後も市内バス運行の改善・充実のため、ニーズに即したダイヤの見直し、隣接する自治体との連携等の検討を行い、あわせて地域公共交通確保維持事業により、鉄道や飛島公共交通バスなどの幹線に接続し、市民生活と地域を支えるフィーダー系統として確保・維持していくことが必要であるとしている。 ・次のページをご覧ください。 ・「2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果」として、事業の目標は、「弥富市地域公共交通計画」における目標に基づくものとして①から⑤の目標を掲げている。 ・また、「事業の効果」としては、「弥富市地域公共交通計画」に基づく取組みの推進により、コミュニティバスの運行を維持することが可能となり、高齢者等の通院や買い物等の市民の日常生活に必要な移動手段が確保され、高齢者等の外出が促進される。また、市内鉄道との接続により、名古屋方面を始めとした通勤・通学や買い物に対応する公共交通ネットワークを構築することができ、クルマに過度に依存しない社会の構築にも繋がるとしている。 ・次のページをご覧ください。 ・次に「3.2 の目標を達するために行う事業及びその実施主体」については、「弥富市地域公共交通計画」に基づき事業を実施するものとしている。 ・次のページをご覧ください。 ・「4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行システムの概要及び運行予定者」について、現在のシステムの概要や時刻、運行事業者の決定方法について記載している。 ・次に「5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の負担者」は、弥富市となっており、運行収入及び国庫補助金を運行経費から差し引いた差額分を負担することとしている。 ・「6. 補助金の交付を受けようとする補助対象事業者の名称」は、三重交通（株）である。 ・次に 7～11 について、弥富市は「該当なし」となっている。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・次のページをご覧ください。 ・次に、「12. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要」についても所定の様式に従い、別途整理しているが、ここでは説明を割愛させていただく。 ・また、13 から 19 について、弥富市は「該当なし」となっている。 ・次のページをご覧ください。 ・「20. 協議会の開催状況と主な議論」として、令和 3 年度の協議会開催状況と、今回の協議会開催について記載している。 ・次に「21. 利用者等の意見の反映」については、協議会構成員に住民又は利用者の代表が参加していることや、弥富市地域公共交通活性化協議会の場で検討協議した結果を踏まえて本計画を策定している旨を記載している。 ・最後に「22. 協議会メンバーの構成表」を記載している。 ・本計画については、現在も運輸支局と記載内容について調整を続けており、この会議の場では概ねの記載内容の確認と、今後、計画提出までの調整を事務局に一任していただきたく、ご審議をお願いしたい。 ・以上で、説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・只今説明いただいた点に関してご意見、ご質問はあるか。 ・内容に今後修正が求められるのか。もしその場合は事務局と愛知県運輸支局で、運輸支局の指導を受けながら提出をお願いしたい。 ・ご審議いただきたいと思う。承認いただける方は挙手をお願いする。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局のほうで運輸支局と調整し、この計画の提出を進めていただきたい。

4.議題

(4) 無料お試し乗車券について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、議題 (4) 無料お試し乗車券について、事務局より説明・報告していただく。
事務局 (富居)	<p>○資料 4 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用促進策として、無料お試し乗車券について資料 4 を基に説明する。 ・これまで 11 回にわたり実施し、利用者増の効果が認められた無料お試し乗車券の配布について、今年度も実施する。 ・配布対象は昨年度と同様に、市内全世帯に加え、小学生にも配布することを考えている。 ・また、利用可能期間については、夏休み期間のほか、7 月 21 日から 9 月 30 日までの約 2 ヶ月の期間としたいと考えている。 ・うら面には過去の無料お試し乗車券の配布結果を整理している。 ・また、次の紙の表裏が今年度のサンプルとなる。 ・おもて面では、コロナ対策も含めた啓発を目的とした文言を記載し、うら面には簡単なアンケートを記載して、回答を無料乗車の利用条件としている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの内容については、昨年度と同じ内容である。 ・以上で、説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・利用促進策として実施するという事になっている。この内容については以前審議いただいているが、最終報告として報告させていただいた。 ・ご意見、ご質問があればお願いします。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・今年初めて小学生が対象か。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年以前も小学生は対象になっている。また昨年から小学生が使いやすいように利用期間の始めを夏休みに入る時期に変更している。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生がどういう利用をすることを想定しているか。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば夏休みの時期に親子で海南こどもの国などの施設に遊びに行ってもらうことを想定している。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生同士が乗り合わせて安全に乗れるようにするべき。 ・基本的にバスは平日で、日曜日は運休であるため親と一緒に出掛けるといよりは平日子供同士で安全に乗り合わせて使えるようにしたほうが良い。子供同士での乗車を想定していないのであれば別だが、そういったことを促進するような働きかけをしていただきたい。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生に配っている理由としては、小学生が中学・高校生になったときにバスを使ってもらいたいからである。若い時からバスに乗ることに慣れてもらいたい。いただいた意見について、これからさらに案を考えて進めていきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回初めて参加された小林さん、これまで無料お試し乗車券を見たことはあるか。
小林委員 (女性の会代表)	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前に使ったことがある。海南病院が新しくなった時に、福祉センターからみんなで乗ったことがある。1回だけ使ったことがある。距離は近いが、バスで行くと少し時間がかかる。 ・コミュニティバスは基本的に高齢者のためのもので、全国的にあまりもうからないが、1億円の経費に対して400万という収支は考えていかなければならない。南部地域の人に聞くと、飛島のバスを使って蟹江の方に行った方が、利用価値があるという声がある。弥富駅の方だけではなく、乗り合いで蟹江の方に効率よく行くような案を考えてはどうか。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方に使っていただけるように市民代表の皆様にはPRをお願いしたい。 ・この意見は以前から言われており、市長も認識している。意見を踏まえながら改善案を検討していく。
永井委員 (福寿会会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生にはどのように配布しているのか。学校に行き配布しているのか。小学3年生で市内見学がある。その際にきんちゃんバスを活用したら良いと思う。子供同士で乗ることが適切かは学校側と相談するのが良い。学校には先生もしくは事務局の方から説明することが必要であると思う。学校を利用することは将来的にも良いことである。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・各小学校を通じて配布している。小学校の社会見学に使うのが良いのではないかとこの質問は市議会の一般質問でも上がっていた。社会見学に使うことも学校と相談しながら市の施設を回っていただくことも検討していきたい。

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年のお試し乗車券でどれほどの方が利用していただけるのかというところを楽しみにしていきたい。
------	---

4.議題

(5) バス停名の変更について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・議題 (6) バス停名の変更について、事務局から説明をお願いします。こちらは審議事項となっている。
事務局 (富居)	<p>○資料5 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス停名の変更について資料5を基に説明する。 ・名古屋競馬場がトレーニングセンターへの移転、開業したことからバス停名を「名古屋競馬場」に変更するものである。 ・変更は令和4年9月1日(木)とし、南部ルートが対象となる。 ・以上で、説明を終わる。 ・ご審議をお願いしたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停名等の変更について、ご意見、ご質問があればお願いします。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・全会一致で承認いただいた。事務局で手続きを進めていただきたい。

4.議題

(6) 第2期南部地域社会実験運行バス(南部地域通学通勤バス)について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期南部地域社会実験運行バス(南部地域通学通勤バス)について、事務局より説明していただく。審議事項となっている。
事務局 (富居)	<p>○資料6 説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期南部地域社会実験運行バス(南部地域通学通勤バス)について、本日配付した資料6の当日差し替え版を基に説明する。事前に送付した資料から15ページのきんちゃんバスのダイヤを修正している。 ・まず、1ページ目をご覧ください。 ・第2期南部地域社会実験運行は令和4年4月1日(金)～令和4年8月31日(水)の平日のみ実施している。料金はきんちゃんバスと同一の一般200円で運行している。車両は1台で、朝3便、夕5便の計8便で運行している。運行ルートは近鉄弥富駅南口、鍋田公民館を起終点とするルートである。 ・次に、2ページ目をご覧ください。 ・第1期運行の利用状況について説明する。利用者数は令和3年1月が711人と一番多く、1日平均利用者数は37.4人であった。バス停別乗降者数は乗車・降車ともに、近鉄弥富駅南口と愛知黎明高校が多いことが分かる。 ・次に、3ページ目をご覧ください。 ・便別でみると、朝の便は近鉄弥富駅から南部コミュニティセンターへ向かう便、夕方の便は南部コミュニティセンターから近鉄弥富駅へ向かう便の利用者が多いことが分かる。以上で、第1期実験運行の説明を終わる。 ・次に第2期運行の説明をする。まず、4ページをご覧ください。

	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年6月7日(火)までの乗車実績を示している。第1期運行と比べて、利用者数が増加していることが分かる。 ・5ページをご覧ください。 ・バス停別乗降者数は、第1期運行と同様に乗車・降車ともに近鉄弥富駅南口と愛知黎明高校が多いことが分かる。 ・6ページ目をご覧ください。 ・便別利用者数は、朝便の利用が夕便の利用に比べて多いことが分かる。 ・次は、第2期運行利用者アンケートの概要とその集計結果、運行目標の達成状況についてである。 ・7ページをご覧ください。 ・第2期運行利用者アンケートは令和4年5月9日(月)～5月20日(金)の期間、実験便社内で運転手から直接利用者に配布した。回答期間は令和4年5月9日(月)～5月27日(金)で、車内、愛知黎明高校、WEBで回収した。 ・利用属性に関して、愛知黎明高校生が80.6%を占めており、居住地は弥富市外が多いことが分かった。 ・8ページをご覧ください。 ・南部地域通学通勤バスの主な利用方向に関して、往復での利用が64.5%と多く、利用しない方向の交通手段は自転車や車、きんちゃんバスが多いことが分かった。 ・9ページをご覧ください。 ・南部地域通学通勤バスの利用頻度に関して、雨の日等天候の悪い日に利用する方が48.4%と多いことが分かった。 ・また、南部地域通学通勤バスの利用目的に関して、通学が90.3%と多いことが分かった。 ・南部地域通学通勤バスを利用する以前のきんちゃんバス利用状況に関しては、雨の日などの天候の悪い日に利用する程度であったという方が多く、これまでにきんちゃんバスを利用したことがなかった方は27.4%であると分かった。 ・10ページをご覧ください。 ・南部地域通学通勤バスを利用する以前の主な交通手段に関して、自転車を利用している方が多いことが分かった。 ・また、南部地域通学通勤バスに乗るまでや降りた後の主な交通手段に関して、南部コミュニティセンターバス停・愛知黎明高校バス停でバスに乗るまでや降りた後の主な交通手段として徒歩や自転車を利用している方が多いことが分かった。 ・11ページをご覧ください。 ・近鉄弥富駅南口バス停でバスに乗るまでや降りた後の主な交通手段として、近鉄やJR、名鉄、徒歩が多いことが分かった。 ・また、鍋田公民館バス停でバスに乗るまでや降りた後の主な交通手段としては、徒歩の方が多いことが分かった。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・南部コミュニティセンターのバス待ち環境に関しては、利用者用に開放していることを知らなかった方が多いことが分かった。 ・12ページをご覧いただきたい。 ・南部地域通学通勤バスの評価に関して、運賃や停車バス停の満足度が非常に高く、運行本数や運行ダイヤの満足度が低いことが分かった。 ・次に、13ページの運行の目標の達成状況について説明する。 ・地域公共交通計画における目標①に対応している「社会実験運行目標①：利用者数の増加」に関して、1日平均利用者数で80人/日を目指しているが、第1期の期間最大実績は1月の37.4人/日と未達成で、第2期の期間最大実績は令和4年6月7日（火）までの段階で4月の35.3人/日である。 ・地域公共交通計画における目標②に対応している「社会実験運行目標②：新規利用者の獲得」に関して、社会実験便利用者アンケートで「きんちゃんバスを利用したことがなかった」と回答した方が、第1期実績と第2期実績合計で42人であり、目標の20人を達成している。 ・次に今後の社会実験運行に関してだが、資料7で別途説明するため割愛する。 ・14ページ、15ページをご覧いただきたい。 ・第2期社会実験運行終了後のダイヤ案を説明する。南部コミュニティセンターへの停車を継続する。また、南部コミュニティセンターの駐車場やエントランス、鍋田公民館の駐輪場のバス利用者への開放を継続する。南部3便、12便について、新たに愛知黎明高校バス停に停車する。名古屋競馬場移転に伴い、全便の「トレーニングセンター」のバス停を「名古屋競馬場」に変更する。 ・以上で資料6の説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期南部地域社会実験運行バスについてご説明いただいた。委員より意見があれば出して頂きたい。
遠藤委員 (民生・児童委員 協議会)	<ul style="list-style-type: none"> ・南部地域の人に尋ねたところ、朝の通勤通学の便をもう1便増やしてほしいという意見があったが、2便に増やせないか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・実験については8月31日に終わってしまうため、実験で2便に増やすことは難しい。
伊藤委員 (弥富市区長会 長)	<ul style="list-style-type: none"> ・木曾岬バス、飛島バスと比べると圧倒的にきんちゃんバスは時間がかかる。もう少し時間を短くできないか。高校生の5分は大事である。 ・実験の結果が芳しくない。その理由としては電車の到着時間と近鉄弥富駅へのバスの到着時間が合致していないことが挙げられる。そのため、目の前で乗りたい急行電車が行ってしまいうのでもう少し頭をひねってほしい。ストレートで弥富駅に行けないか。言いにくいことだが、朝一で海南病院も市役所もやっていない。そういった施設を経由する必要があるのか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・第3期の社会実験の際にバスの見直しをしていきたい。バスと電車の乗り継ぎも十分に考慮したい。 ・直通についても地元の人意見を聞きながら直通にするか周回にするか検討していきたい。

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・今の修正点を反映できるのはいつ頃になるのか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・来年の4月から第3期社会実験が始まるため、その期間はまだ検討段階である。大きくダイヤ改正をしていこうと思うと令和6年の4月になる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・次の議題でもある第3期社会実験の中でも区長会長の意見について改善する余地はあると思うため、事務局には検討していただきたい。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・実験に協力していただいた方のその後の受け皿はどうなるか。今回の実験に協力いただいて得た結果をいつ・どのように反映するかをしっかりとアナウンスする必要がある。市が市民の意見を聞いてくれないという状況に陥りかねない。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度のデマンド運行実験を行うにあたって第2期実験運行の結果を基にしていることを、各地区を回ってしっかり説明する。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートでの聞き方について、今まで利用したことがなかった人が分かるのは良いのだが、大事なものはその先で、これからも使ってくれるのか、利用するとすればなぜなのか等を聞く必要がある。今後も使ってくれるのかどうかということが見てわかるようなアンケートの聞き方をしてほしい。今後のアンケート調査に生かしてほしい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかに何かあるか。 ・第2期社会実験は8月31日まで現行のダイヤで続けるということの間違いないか。そして、第2期実験終了後、ダイヤを改正するという間で間違いないか。 ・ダイヤ改正案をもう一度説明をお願いしたい。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・南部コミュニティセンターへの停車を継続する。また、南部コミュニティセンターの駐車場やエントランス、鍋田公民館の駐輪場のバス利用者への開放を継続する。南部3便、12便について、新たに愛知黎明高校バス停に停車するようにする。名古屋競馬場移転に伴い、「トレーニングセンター」のバス停を「名古屋競馬場」に変更する。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・この案で承認いただける方は挙手をお願いしたい。
伊藤委員 (弥富市区長会長)	<ul style="list-style-type: none"> ・反対である。今高校生が望んでいるのは時間の短縮である。 ・既存の路線より4分長くなっている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・この協議会の規約はどのようになっているか。全会一致でないとダメか。地域公共交通の協議会では原則として全員が承認していただかないといけないというケースが多い。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・規約については、規約9条に、原則として全会一致で決するが、意見が割れた場合は参加者の4分の3以上の賛成で決することとなっている。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・しかしこの意見は非常に大事な意見である。今までもずっと考えてきたことではある。今思いつく対策案はあるか。問題は南部地域の高校生が駅に出るのに時間がかかりすぎることである。これは現在のルートやダイヤでは難しいのか、大幅な改善が必要なのか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・やはり、幹線ルート化して第2期社会実験をやったが、実際に時間が長くかかってしまった。ここの部分については先ほども触れたが、第3期のデマンド運行の際にルートの見直し等の大掛かりな見直しをしていかないといけない。今回のところとしては、なんともできないということ

	ろである。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 9月から見直すというのは難しいと思うが、令和6年からの見直しとなると見直しが遅いという非難の声があがる恐れがある。来年度の第3期の際に、南部に住む黎明高校生以外の高校生が駅に出る際の利便性向上を考えてほしい。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> 一つの案として聞いていただきたいが、朝夕だけ幹線ルート、昼は周回ルートという形で三重交通と話し合っていて決めていきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ほかに何か意見はないか。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 承認いただいた。事務局のほうでスピード感に留意して準備を進めていただきたい。

4. 議題

(7) 第3期南部地域社会実験運行について

山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 次に、議題(7)第3期南部地域社会実験運行について、事務局より説明していただく。協議事項となっている。
事務局 (富居)	<p>○資料7説明</p> <ul style="list-style-type: none"> 第3期南部地域社会実験運行バスについて、資料7を基に説明する。 まず、1ページをご覧ください。第3期社会実験運行概要について説明する。2ページ目の第3期社会実験運行のイメージを見ながらお聞きいただきたい。 第3期社会実験運行の期間は令和5年4月～9月の半年間である。運行形態としては、第2期までと同様、既存のきんちゃんバス路線型運行を維持する。一方で第3期は第2期までと異なり、日中の時間帯のデマンド運行導入を検討している。しかし、現在のきんちゃんバスの利用者の8割程度が高齢者であることを踏まえると、いきなりデマンド運行といった、これまでと全く利用方法の異なる公共交通を導入しても、利用を敬遠されてしまうのではないかという懸念がある。また、南部ルートは朝夕の通勤通学に対応する必要がある。そこで、既存の路線型運行を維持しつつ、お住まいがバス停まで遠い方の買い物、通院、公共施設利用等の需要に対応する運行として、デマンド運行を知っていただき、利用体験を通じて、地域の方々に評価していただく機会として社会実験運行を実施したいと思う。 5月には、栄南学区と大藤学区で、意見交換会を実施し皆さんの意見を聞かせていただいた。その内容は当日配付資料として会議録を配付している。 デマンド運行は週2回程度の運行を検討している。また、南部地域を2つの地域(大藤、栄南)のほか、中心部地域と飛島村役場バス停の3地域1バス停に区分し、南部地域の2つの運行地域内にバス停を設置する。中心部地域は既存バス停のほか、商業施設や病院などを中心にバス停を増設する。ただし、中心部地域内々での乗降はできないものとする。ことを検討しているが、あくまでも現時点でのたたき案であり、運行日や行き先、バス停の位置、料金制度などについては地域に意見を聞きに行き、検討していく。 3ページの実行運行開始までのスケジュールをご覧ください。地元の方と調整し、令和4年10月末までに運行方法(案)を確定し、11月

	<p>の第2回協議会と12月の第3回協議会で提案させていただく。その後、各地区におけるデマンド型乗合タクシーについて、予約方法、乗車方法等の詳細説明会や周知活動、運行許可等の申請をし令和5年4月1日から運行を開始するというスケジュールになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 次に今までに検討した南部地域の公共交通再編案についてである。4ページ～6ページをご覧ください。こちらは前回、令和3年度第4回協議会時と同じ内容になっている。第1案は、朝夕の時間帯は西部臨海部でまでの路線型運行を残し、デマンド中心の運行を行うという案である。第2案は、大藤学区は路線型運行を残し、栄南学区はデマンド中心の運行を行う案である。第3期社会実験後の南部地域の再編についても今後継続して検討していく。 次に、運行事業者の選定についてである。7ページをご覧ください。 市としては、デマンド運行導入の実績とノウハウが豊富な株式会社アイシンのチョイソコシステムの採用を前提に、運行事業者の選定を考えている。現段階では運行事業者は弥富市内で運行可能なタクシー事業者を想定しており、7～8月頃を目途に決定する。チョイソコの特徴については参考資料6を参照いただきたい。チョイソコシステム導入のメリットとしては、“システム提供のみではなく、看板設置や住民説明会・利用促進・スポンサー営業等の全国30ヶ所での導入実績とノウハウの提供を受け、市と伴走型で行うことができる”“経験豊富なオペレーターにより、主な利用者となる高齢者にも寄り添った対応が可能”“運行事業者（運転手）はアプリの指示通りに運行を行えばよく、運行事業者（運転手）の負担が少ない”“本格運行に向け、エリアスポンサー（地域事業者）にチョイソコ事業への参画を促進し協力を得ながら持続可能な仕組みづくりを行うことができる”等が挙げられる。チョイソコシステムの導入については審議をお願いしたい。 以上で資料7の説明を終わる。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> 第3期南部地域社会実験運行バスについてご説明いただいた。委員より意見があれば出して頂きたい。 令和5年の4月なので、第2回、3回の協議会あたりまでに確定していきたい。
服部委員 (西部臨海地帯 企業連絡協議会)	<ul style="list-style-type: none"> 南部ルートの臨海地域の通勤に影響が出る場合は協議会の前に事前に話をしていただきたい。いきなりだと西部臨海地帯企業連絡協議会の方が対応できない。
多田委員 (名古屋タクシー 協会)	<ul style="list-style-type: none"> 豊明市がチョイソコを導入していくところに最初から関わってきた。どういうメリットがあってどういうデメリットがあるか等、本協議会とは別に運行事業者やアイシン等を交えて協議してきた経緯がある。ここでそういうことをしろということではない。運行主体は誰になるのかが大事である。また、運営に対する責任主体は誰なのかが大切である。一番大きいのはお金の問題で、民間のバス停を設置するための協賛金を商業施設や委員から徴収し運行費用の一部に充てるという仕組みになっている。それでも足りない部分はどうするのが大切である。 ここではタクシー事業者を運行主体として想定しているが、タクシー事業者は運行における主体であって、責任をどのように負担していくのかが大事。タクシー事業者は運行のみの責任しかない。市やアイシン、タ

	<p>クシーグループそれぞれの位置づけや役割、責任を明確にしてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 一番の問題は、メリットデメリットの整理である。時間の制約があるとシステムが成り立たなくなる。往復にたくさんの時間がかかってしまうと予約ができない、予約不成立の問題が生じる。車両の台数を多くしないといけなくなる。そうするとたくさんのお金がかかってしまうので、十分に協議してほしい。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> • その点に関してはタクシー事業者としっかり協議している。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • 今想定している形としては、協議会が運行主体ということで良いか。 • 運賃収入、協賛金収入で賄えない部分は協議会が負担するということが良いか。そういったことが見えるような資料を作っていく必要がある。 • チョイソコがなぜ注目されているかということ、地域の企業がスポンサーとなって協賛金を出してくれるからなので、チョイソコを導入するとすると多くの企業にスポンサーになってもらうことが大切である。 • 市の方で今スポンサーになってくれそうな企業はあるのか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> • 豊明市でスポンサーになっていたスギ薬局などを想定している。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> • チョイソコについては、まさに私が冒頭で話した公助の話であり、成功すればよいと思う。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> • 大藤と栄南地区の意見交換会の意見がどのように反映されているか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> • 大藤・栄南学区での意見交換会の結果は現在のきんちゃんバスに反映させていただき、意見交換会の目的としてはなぜデマンドを導入するのかという説明をした。デマンド運行は、移動が困難な高齢者を対象としており、そういった方の移動をどうするかということから話が始まっている。 • 栄南学区では、きんちゃんバスについて、蟹江の方に行く人が多いという特徴がある。意見交換会ではバスのルートに関して、幹線化してほしい、努力してほしいという意見があった。デマンドに関しては目立った意見が出なかった。 • 大藤学区ではデマンドについて細かな意見が出た。料金の話やどういう人が使えるのか、そもそもデマンドとは何かという意見があった。概ね皆さん、やっぱりないと困るということで自分たちも車がなくなったら困るからという人もいた。 • 一度社会実験でデマンド運行を体験してもらい、本当に便利なのか、良いところ悪いところを感じてもらおう。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> • 概ね先ほどの内容だが、大藤学区の人は変わるなら具体的に内容を教えてほしいという姿勢で栄南学区はそもそもバスを使っていないし、蟹江に行きたいし、料金高いしということで、学区で温度差があるイメージがある。 • ネックは料金で、大藤・栄南学区の両方で意見が出た。そこをセンシティブに考える必要がある。 • 「ご近所割」のような、申し込みの時点であるべく複数の人で乗り合うような仕掛けづくりが大切であると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド運行は社会実験で終わることはないのか。本格導入するという事で間違いないか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的には社会実験により利便性の高いものにして、今後本格導入していく。 ・デマンドは日中、9時から16時の移動困難な高齢者を対象としているため、朝夕は通勤通学のための路線バスの運行を考えている。
永井委員 (弥富市福寿会 連合会)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド運行の成功・失敗はどのように判断するのか、その線引きをしっかりとる必要がある。利用者で判断する場合はPRをしっかりとっていかないといけないと思う。成功した事例や失敗した事例等を研究していく必要がある。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期、第2期と同様、数値的な具体的な目標を立てていきたい。 ・過去の事例を基に今後具体的な成果目標を決めていきたい。
永井委員 (弥富市福寿会 連合会)	<ul style="list-style-type: none"> ・日中の高齢者の移動が主ということだが、南部の方で自動車の免許を返納した人がどれくらいいるのかを把握しているのか。 ・免許を返納して困っているという人もいる。どれほどの人が困っているのかということ把握すべき。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・蟹江警察署の協力を得ながら把握している。 ・民生委員の方に高齢者の自宅を訪問していただき、把握している。
多田委員 (名古屋タクシ ー協会)	<ul style="list-style-type: none"> ・料金的な否定的意見は必ず出てくる。 ・栄南学区では既存のきんちゃんバスをあまり利用していないという意見だった。 ・大藤地域ではいろんな利用が考えられる中でこれからどのように利用するかということを考えていく。 ・一番大切なのは本当に便利になるのか、栄南学区では今まで拾いきれなかった需要をどれだけ拾えるかが実験運行の大きな狙いになる気がする。 ・運行費用が少なくなったから成功ということではなく、住民の利便性が上がったのかどうか大切である。 ・最終的には費用対効果になると思うが、市の費用がどのように変遷しているのが住民が分かるようにする。
岡本委員 (愛知県運輸支 局)	<ul style="list-style-type: none"> ・デマンド運行を導入するにあたって、一部飛島の方に出るという流れになっている。飛島の方に出る手続き・話は飛島の方にしているか、また今回飛島まで伸びている意図はなにか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・蟹江方面への乗り換えの面や目的地のバス停設定として飛島のスーパー等が考えられることから、飛島の方に矢印を向けている。 ・飛島村の方には、大藤・栄南学区の議事録を渡してあり、議論していることを報告している状況である。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・この協議会のメンバーにも飛島の方に入ってもらっている形で十分に意思疎通できるように進めている。 ・この場合飛島の協議会に諮る必要はあるのか。
岡本委員 (愛知県運輸支 局)	<ul style="list-style-type: none"> ・通常は協議を諮っているが、絶対協議を諮らなければならないということではない。

山崎議長	・飛島の方とはその点についてどのように進んでいるか。
事務局 (藤井課長)	・まだ具体的にそれほど進んでいない。飛島の方からバスについてはある程度想定人数は教えてほしいという話はあるが、踏み入った話はしていない。
山崎議長	・伊藤さん何か意見ないか。
伊藤委員 (公募委員)	・デマンドの利用に関して、高齢者は予約の壁がある。高齢な方は週の予定がある程度決まっているため、毎回予約というわけではなく、一括で毎週予約できると良いのではないかと。後々行動が似ている人同士で乗り合うこともできる。
山崎議長	・チョイソコの場合、一括で1ヶ月予約という事例はないが、私が仕事で関わったところでは、そういった予約の仕方を許容していた。だが、予約が事前に埋まっていると他の方が使いたいときに使えないという弊害が出てきてしまう。そこは難しいところであると思う。 ・デマンドで一番良いのは相乗りしてもらおうということなので、そこを促すことが大事であると思う。 ・そのほかに意見はないか。
委員一同	(異議なし)《承認》
山崎議長	・ありがとうございます。事務局のほうで進めていただきたい。

4.議題

(8) その他

山崎議長	・議題(8)その他について事務局から願います。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・その他として2点ある。 ・まず、現在のきんちゃんバスの利用状況、南部地域社会実験運行バスについて、参考資料2の利用者実態調査結果をご覧ください。 ・初めに、年度別乗車人員の推移についてですが、全ルートにおいて前年と同程度の乗車人員であります。令和3年度は社会実験を行っているため、全体としては前年度と比較し約4千人増加し6万6千134人、前年度比で1.07となっている。 ・また、1日あたり平均乗車人員では前年度に比べて増えているが、1便あたり平均乗車人員では、南部ルートでは増加しているが、北部、東部ルートで減少しており、全体では社会実験便が低い数値であることも影響し、減少となっている。 ・次に月別乗車人員の推移について、3ページをご覧ください。 ・令和3年度の月別乗車人員は、愛知県に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用された5、6、7、8、9月の乗車人員が少なくなっているが、まん延防止等重点措置が解除された10月以降は増加傾向にある。しかし、再度1月にまん延防止等重点措置が適用され1月以降は減少傾向にある。 ・また対前年比の推移では、比較的多くの月で前年の月を上回っていることが分かる。 ・次に4ページ目の高齢者が多く買い物利用が中心の北部ルートでは対前年度比0.97。 ・5ページ目の買い物や通勤・通学利用が多い南部ルートでは対前年度比1.07。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 ページ目の高齢者が多く公共施設利用が中心の東部ルートにおいては対前年度比 0.95 となっている。 ・ 7 ページ目の南部地域社会実験運行バスの乗車人員の推移においては、開始月の 9 月から 1 月までは増加傾向ですが、2 月、3 月は 1 月以前と比べて急激に減少している。 ・ 以上で、参考資料 2 の説明を終わる。 ・ 2 点目として、移動支援事業の状況について報告する。 ・ 弥富市ささえあいセンター買い物支援サービス令和 3 年度輸送実績については、参考資料 3 をもとに報告する。 ・ この自家用有償旅客輸送実績報告書は、各年度分を翌年度 5 月末までに、愛知運輸支局に提出することが定められており、今年 5 月に提出した報告書になる。令和 3 年度の弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスの輸送実績は、車両は、プリウスとシエンタの 2 台で、輸送人員は 18 名、運送回数は 217 回となっている。 ・ 運送の対価は 30 分あたり 150 円、運送の対価以外の対価の介助料は 30 分あたり 200 円となっているが、運送部分の収入は 13 万 7 千円となっている。 ・ また、弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスは、令和 3 年度から自家用有償旅客輸送の福祉有償運送として、愛知運輸支局にて登録をしているが、その更新期限が令和 5 年 3 月末に迎えることから、年末の本協議会で更新登録について諮り、愛知運輸支局に更新登録を行うことを予定している。 ・ そこで、更新登録に先立ち、新規登録の際にも行ったが、地域公共交通会議及び運営協議会の設置並びに運営に関するガイドラインの会議等における検討のプロセスの更新登録における検討のプロセスにより協議に基づき、地域の交通事業者に対して、地域の移動ニーズに対応した交通の導入に関する提案の照会を、再度、文書で行いたいと思う。 ・ また、弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスの更新登録の事業内容は、現在と同じ内容で行うことを考えているため、お願いしたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 点報告いただいた。 ・ 意見・質問等お願いしたい。
鈴木委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 7 ページの 2 月、3 月が急激に減少した理由を教えてください。
事務局 (富居)	<ul style="list-style-type: none"> ・ まん延防止の発令と学校が休みになったことが影響している。
伊藤委員 (公募委員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ささえあいの車、買い物だけしかいけない理由はどうか。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ タクシー利用との差別化を図るためである。弥富市ささえあいセンター買い物支援サービスは要介護認定されている方などが買い物に行けるようにするためのサービスである。もともと病院への通院は目的としてなかった。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の意見だと通院にも使えたほうが良いのではないかという意見だが、ささえあいセンターにこういった意見があったことを伝えたほうが良い。

多田委員 (名古屋タクシー協会)	<ul style="list-style-type: none"> ・自力で公共交通を利用できない方のために、介助サービスとともに輸送を行うものである。そのため利用できる人の制約が厳しい。 ・制度的に対象にすることは問題ないが、ささえあいセンターでそこまで受けきれぬかどうかというところが問題。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・結局ボランティアが行うから、そこまでできない可能性がある。
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・ささえあいセンターと相談して、可能であれば前向きに検討していきたい。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかに意見はないか。 ・最後に安藤市長から言葉をいただく。
安藤市長	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間にわたりご議論賜り感謝申し上げます。 ・よく失敗から学ぶという言葉があり、第1期・2期という風に進めてきて、コロナの影響も多少あるがうまくいっていないというのが現状である。 ・採算が合うものではないが、利用者から良いものをやってくれたという意見をいただきたいところである。第3期でデマンドを導入していくが、地域によって温度差がありどのようにやっていくかが大きな課題であると考えている。 ・デマンドは両立できないものであるため、デマンドを本格的に導入していくとバスは利用できなくなる。そうすると朝夕はバス、日中はデマンドという形になる。地域の方々がそれで納得するか、地域の方が公共交通に生活を合わせていけるのかというところをしっかりと協議していく必要がある。 ・また貴重なご意見を次回も賜りたい。よろしく願います。
山崎議長	<ul style="list-style-type: none"> ・時間が長くなったが、以上で議題はすべて終わった。 ・事務局にマイクをお返しする。
5. 閉会	
事務局 (藤井課長)	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡事項であるが、次回の第2回協議会は11月2日、第3回協議会は12月19日を予定している。また詳細は追って案内する。 ・以上をもって、第1回弥富市地域公共交通活性化協議会を終らせていただく。今後ともご協力賜りますようお願いしたい。
	以上